

ちまたで目にする



トレンド用語解説

ネットミーム (Internet Meme)

(ジャンル：インターネット)

SNSなどでユーザーによって急速に拡散される画像・動画・フレーズなどのこと。元ネタにテキストや説明などを追加してパロディ風にアレンジされ、改変を続けながら連鎖的に広がっていく。

日本で最初に拡散されたものとしては、布団を叩きながら隣人に罵声を浴びせる「騒音おばさん」の画像などが挙げられる。最近では猫が踊る姿や、フクロウの雛の写真に「エッホ、エッホ」の擬音を付けた映像などが流行している。

とうけいきょう 2026 年 7 月号より

警備員スピリット

第3章 関係法令 第3節 刑法



2 刑法と罪刑法定主義

「刑法」という言葉には、どういう行為が犯罪となり、それにどの程度の刑罰が科せられるのかを定めた刑罰法規のすべてを意味する場合と、「刑法」という名を付けられた現行の法律、つまり、刑法典を意味する場合とがある。前者を「広義の刑法」、後者を「狭義の刑法」と呼ぶこともある。ここでは、便宜上、狭義の刑法としての「刑法典」のことを刑法と呼ぶこととする。

この刑法には、刑事犯罪のうち重要なものが網羅されており、また、犯罪と刑罰に関する一般的な規定が「総則」として設けられており、他の刑罰法規のすべてに、原則として適用されている。このような意味において、刑法は、刑罰法規の中で最も中心的な位置を占める法律である。

ある行為をした場合に、それが犯罪になるか否かは、国民にとって重要な問題であるから、近代国家においては「法律なければ犯罪なく、法律なければ刑罰なし」、つまり、いかに社会的、道徳的に非難されるべき行為であっても、法律によって犯罪とされない限り犯罪ではなく、また、その犯罪に対して法律に規定する刑罰以外の刑罰は科せられないという原則が確立されている。これを罪刑法定主義という。

日本においても同様であるが、日本の刑法にはその条文中に罪刑法定主義についての明文規定がない。これは憲法によって規定され、周知の事実とされているからであると考えられる。罪刑法定主義の派生的原則として、次のようなものとされている。

- ① 慣習刑法の排斥
- ② 刑罰法規の不遡及
- ③ 類推解釈の禁止
- ④ 絶対的不定期刑の禁止 等

全国警備業協会編集・発行「警備員教育教本」より

編集後記

今回は AI に関する話題が多いと思います。確かに AI の進化は凄まじく、驚かされることが多いですが、AI に単純作業や監視を任せることで「人間が考えることをやめる」のは、交通誘導を含めた警備現場だけでなく、社会全般において非常に大きなリスクをはらんでいると感じます。「AI に考えさせる」のではなく、「AI を道具として使いこなし、人間はより深い洞察と判断に集中する」という意識のアップデートが欠かせません。AI 時代だからこそ、人間の「疑う力」「予測する力」「配慮する力」の価値が高まっているのではないのでしょうか。

■弊社対応エリア

急なご依頼にも一都三県、対応可能です。まずはお問合せください。



【東京都】

○千代田区 ○中央区 ○港区 ○新宿区
○文京区 ○台東区 ○墨田区 ○江東区
○品川区 ○目黒区 ○大田区 ○世田谷区
○渋谷区 ○中野区 ○杉並区 ○豊島区
○北区 ○荒川区 ○板橋区 ○練馬区
○足立区 ○葛飾区 ○江戸川区 ○三鷹市
○府中市 ○八王子市 ○立川市 ○武蔵野市
○昭島市 ○調布市 ○町田市 ○小金井市
○日野市 ○国立市 ○国分寺市 ○狛江市
○東大和市 ○武蔵村山市 ○多摩市 ○稲城市

■会社概要

社名 恒榮警備保障株式会社
所在地 東京都調布市布田3丁目55番地17
設立 平成3年11月
資本金 1200万円
代表取締役 今泉 紀
従業員 社員7名 警備員総数85名
業務内容 交通誘導業務
社員寮 中野寮、永山寮、稲城寮、稲田堤寮、橋本寮
免許 東京都公安委員会認定第30001567号
加盟団体 全国警備業協会加盟
東京都警備業協会加盟
多摩地区警備業連絡協議会加盟
(令和8年9月現在)

交通誘導のプロ集団

恒榮警備保障株式会社

東京都調布市布田3丁目55番地17
TEL.042-487-5881(代) FAX.042-443-0366
<http://www.kouei-corp.jp/>

KOUEI 通信

ALWAYS We Provide the Best Service with the Best Mind.

2026年
秋

Vol.46



今回の表紙

秋桜
(コスモス)



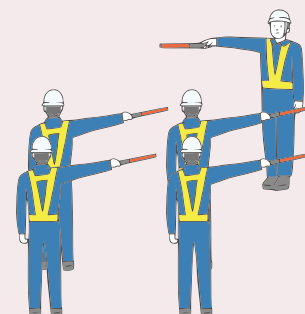
令和八年度上期現任研修

令和8年8月30日・9月13日の2回に分けて、13時から18時まで
恒栄ビルの一階にて令和八年度上期現任研修を実施致しました。



近年、この問題を解決する切り札としてAI（人工知能）技術の導入が注目されており、今後ロボット化の研究も進められるでしょう。しかし、特に交通誘導警備においては、人間しか出来ない役割があります。

現場の複雑な状況や人の心理が絡む場面においては、警備員一人一人が持つ、知識や経験・とっさの判断力が必要になります。それを踏まえ、ここにいる警備員の皆さんは、そういう仕事であるということを今後入社する人達に向けて教える立場にあります。



AIには 対応が困難な 主な業務・場面

- 緊急車両の優先誘導
- 突発的な事故・トラブル
- 丁寧な挨拶とお願い
- 悪天候・視界不良時の認識低下
- 工事車両の特殊な出入り
- 目を合わせた安全確認
- 無理な横断・侵入の制止
- 死角のカバーと立体的な確認

人と人とのコミュニケーションもAIには出来ない部分です。管制とのコミュニケーションにより成り立つ仕事でもありますので、円滑に進められるような気遣いを心掛けて下さい。

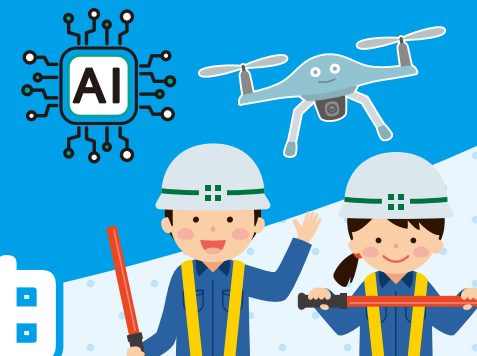
◆道路交通法・交通のルールを今一度学びましょう

間違った知識・勘違いが重大な事故を引き起こす可能性があります。安全・安心を守る仕事だという意識を持って下さい。

AIにはない、人としての仕事のあり方を考える職場づくりを、
これからも目指します！

警備業界

AI・ドローン化でも 警備員が必要な理由



AI化やロボット技術が急激に進化している警備業界ですが、「警備員が完全になくなることはない」というのが業界の共通した見解です。

AIは「人間の仕事を奪う存在」ではなく、「監視や検知をサポートするツール」として機能しており、最終的な現場対応や判断は人間にしかできないためです。警備員がなくなる主な理由は以下の通りです。

1 想定外のトラブルへの「臨機応変な現場対応」

緊急事態の現場判断：不審者の侵入、急病人の発生、事故や火災などの現場では、状況に応じた瞬間的な判断と柔軟な行動が求められます。

物理的な制約：AIカメラやロボットが異常を「検知・通知」することはできても、不審者をその場で制止したり、急病人を介抱・救助したりといった物理的な介入・対処は人間にしかできません。

2 コミュニケーションと「抑止力・安心感」

「人がいる」ことの威嚇・抑止効果：制服を着た警備員が立っている（あるいは巡回している）こと自体が、犯罪に対する強力な抑止力になります。

接客・案内業務：道案内やイベント会場での誘導、トラブル時の丁寧な声かけなど、対人コミュニケーションを通じた安心感の提供はAIには代替できません。

3 複雑な「交通誘導・雑踏警備」の難しさ

建設現場や道路での交通誘導（2号警備）や、大規模イベントでの人流コントロールは、歩行者やドライバーの動き・目線・空気感を瞬時に読み取りながら合図を出す必要があります。マニュアル通りにいかない判断が多いため、AI化が最も難しい領域とされています。

4 責任の所在と「最終判断」

万が一事故やトラブルが起きた際、法律的・社会的な責任を負って判断を下せるのは人間だけです。AIは判断材料（データ）を提供できても、責任を引き受けることはできません。

今後は「AI × 警備員」の役割分担へ

今後の警備業界は、AIと警備員が強みを活かす「分業体制」に移行していきます。

AIの役割 24時間の映像監視、異常検知、定型ルート of ロボット巡回、データ分析などの「監視・一次検知」

警備員の役割 AIからの通知を受けて現場へ急行する「確認・交渉・物理対応・救護」など高度な対人業務

AIの導入により、単調な監視作業の負担が減り、警備員はより高い判断力やコミュニケーション能力が求められる「価値の高い専門職」へと変化しています。

